

ろうさい ニュース

平成 29 年

4 月号

第 392 号

■新年度のご挨拶

開院 51 年目の始まり

いよいよ平成 29 年度がはじまりました。私ども浜松労災病院は昭和 42 年 4 月 12 日に静岡労災病院という名称で開院いたしましたので、ちょうどこの 4 月で 50 周年を迎えました。地域の多くの医療関係者、そして地域の住民の方々のご支援の賜とあらためて御礼申し上げます。

労災病院は通常の急性期疾患のみならず、当時増加しつつあった労働災害や職業病に対応するために国（労働省）の施策として全国に開設されたものですが、当院は 34 番目に開設された比較的新しい労災病院です。実は昭和 60 年に地域により密着したいということで浜松労災病院に名称変更し今日に至っています。

開設時は 300 床、11 診療科であり、医師 25 名、看護師、薬剤師など総勢 178 名という人数です。病床数はあまり変わっていないにもかかわらず現在はこの 2 倍以上の人数であり、それでもスタッフが足りない状況は現在の医療の高度化、複雑化を示しています。そして医療は進歩しても生産工場のように機械化、自動化がなされがたい労働集約型、知識集約型の職種であることを如実に示しています。

医療界のこの 50 年は激動の時代でした。私ごとで恐縮ですが、私が医学部に入って現在にいたる期間と同一であり、この波瀾万丈の時代をまさに体感いたしました。今、あらためて本院が辿った 50 年の軌跡に感慨を覚えているところです。

幸いここにきて医業実績も向上し、常勤医師も増加傾向にあり、いい形で 51 年目を迎えることができましたことに対しまして医師会をはじめとする地域の医療関係者各位に感謝申し上げる次第です。

前述いたしましたように医療は労働集約型、知識集約型の仕事です。十分なスタッフの数とともに一人一人のプロフェッショナルとしての能力が問われることを意味しますので、職員一同、絶え間なく研鑽を積み重ねてまいります。

51 年目を迎えるに当たり、病院連携、病病連携、介護連携を軸に良質で安全な医療を、こころを込めてやり抜く所存ですので、何卒、ご指導ご支援の段、謹んでお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のご発展、ご健勝を祈念申し上げます。

病院長 有井 滋樹

■皮膚科のご紹介

浜松労災病院 皮膚科部長 船井 尚子

先生方をはじめ、関係者の皆様方には日頃よりお世話になり、ありがとうございます。

皮膚科では皮膚に生ずる疾患全てを扱っており、髪の毛や爪などの疾患も含まれます。

現在の体制は常勤医師1名で、外来診療は月～金曜日までの午前診療に加えて、月・木曜日は午後も行っております。疾患は湿疹やじんましん、水虫などの common disease から、全身疾患に伴う皮膚病変まで多岐にわたります。そのため、皮膚科だけではなく他科への受診も必要と考えられましたら院内各科へ、より専門性が必要と判断しましたら浜松医大などへ、いずれも患者様に了解頂いた上で依頼や紹介をすることもあります。また、入院治療も行っており、疾患としましては帯状疱疹や蜂窩織炎など感染症が多い傾向にあります。

<外来でよく行っている検査・処置>

—検査—

- ・直接鏡検による真菌検査：
白癬菌（水虫など）やカンジダ症の診断
- ・アレルギーに関する血液検査（ダニ、ほこり、花粉、動物、食物など）
- ・パッチテスト（貼付試験）：
かぶれや金属アレルギーの精査・診断
- ・ダーモスコピー：色素性病変が主な対象になります
- ・ABI：足～足趾の虚血性変化が疑われる症状の精査
- ・体表エコー：皮膚皮下腫瘍精査
- ・血管エコー：血管病変精査 など
- ・皮膚生検

—処置—

- ・液体窒素による冷凍凝固法：疣贅（いぼ）や一部の腫瘍の治療
- ・鶏眼（うおのめ）・胼胝（たこ）処置 など

<治療について>

外用剤、内服薬、注射・点滴などによる一般的な治療が多いです。

外来で行える範囲の外科的治療も行っています。

※最近、ざ瘡（ニキビ）、爪白癬、尋常性乾癬に対する新しい外用薬が認可され、治療の選択肢が増えています。

当院には皮膚・排泄ケア認定看護師がおり、皮膚科診療の上で重要な役割を担っています。皮膚疾患によっては、環境や外的刺激により発症したり治癒が妨げられたりすることもあり、予防と治療両方の面から日常生活そのものの見直しがとても重要になります。通常の診察の際にそこまで丁寧に話を伺うことは難しいため、必要に応じて皮膚・排泄ケア認定看護師に関わってもらい、日常の注意点や皮膚のケアなどの説明や指導を、個別に行うようにしています。

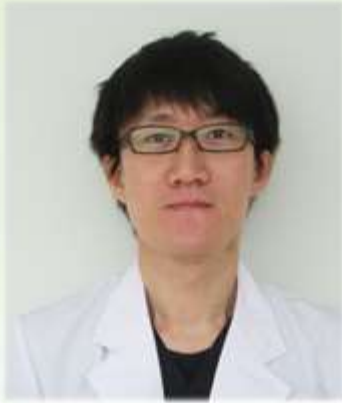
皮膚科疾患は見ることのできる症状が多いからこそ、患者様ご自身に病気や治療方法について理解・納得していただき、患者様主体で治療に取り組んでいただけるような診療を心がけています。

今後ともよろしくお願ひ致します。



毎年11月12日は
“いいひふ”の日

■ 新任医師紹介

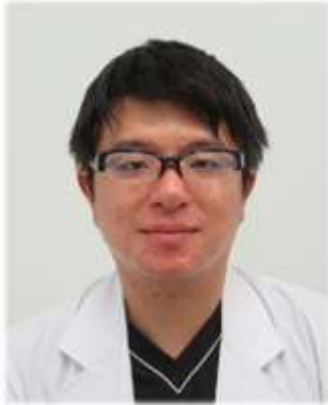


呼吸器内科 赤堀 大介

今年度より浜松労災病院呼吸器内科に着任しました赤堀大介と申します。平成23年に浜松医科大学を卒業後、遠州病院、浜松医科大学附属病院で初期研修を行い、磐田市立総合病院、聖隷三方原病院を経て、この春より浜松労災病院呼吸器内科に着任することとなりました。

呼吸器内科は、感染症や腫瘍性疾患、閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、アレルギー性疾患など広範囲にわたって、急性期から慢性期まで幅広い対応が求められる非常にやりがいのある診療科であると思っています。まだまだ未熟であり、日々勉強の日々ではありますが、少しでも浜松市の地域医療に貢献できるように、また患者さんに寄り添っていける医師を目指して精進していきたいと思っています。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

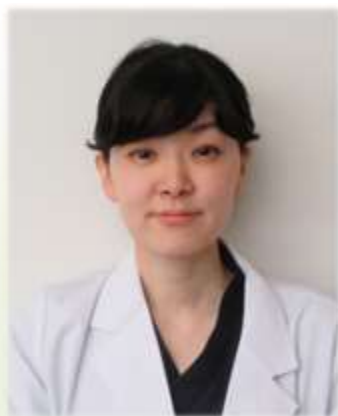


呼吸器内科 深田 充輝

はじめまして、平成29年4月から浜松労災病院で呼吸器内科として勤務させていただくことになりました、深田 充輝（ふかだ あつき）と申します。

出身は神奈川県、中学高校は桐蔭学園中学・高等学校でした。大学から静岡県内に移住し、浜松医科大学に入学しました。大学時代は水泳部に所属しており、中距離を泳いでおりました。

大学卒業後は、磐田市立総合病院や浜松医科大学での勤務を経て、労災病院へやってきました。医師としては今年から5年目になります。まだ呼吸器内科医としては3年目であり、至らない点や不慣れな点があるかと思いますが、浜松市の方々の健康や医療に貢献できるように精一杯頑張っていきたいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。



消化器内科 中村久美子

平成29年4月に着任いたしました消化器内科の中村久美子と申します。平成22年に兵庫医科大学を卒業し、同大学病院での2年間の臨床研修を修了した後、同大学内科学消化管科に入局しました。入局後、大学病院や関連病院での勤務および大学院を修了し、この度は縁あって、この地に赴くこととなりました。

生まれも育ちも関西で、この度初めて関西を離れることとなり、慣れないこともあります。浜松は気候も人柄も暖かい良いところだときいております。新しい土地でこれまでの経験を活かし、より良い診療ができればと考えております。

まだまだ若輩者であり、至らぬ点が多々あるかとは思いますが、この地域の医療に少しでも貢献できるよう日々努力をして参りますので、ご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしく宜しくお願い申し上げます。

消化器内科 森下 宗自



はじめまして、消化器内科に赴任した森下といたします。前任病院は市立島田市民病院でした。分野は基本的には消化器一般ですが、これまで肝臓を中心に行ってきました。

これまでの臓はC型肝炎の治療が中心でした。インターフェロンを中心とした治療でしたが、2014年から直接作用型抗ウイルス薬が使えるようになり、それも新薬が次から次へと発売され、大きな副作用なく、薬に9割以上の方が治るようになり、関心病変が脂肪肝炎等に変わりつつあります。

ご存知のように、肝臓は「沈黙の臓器」と言われ症状が出にくい臓器です。医療関係者から言えば「思わぬ落とし穴に入りやすい病気」とも言えます。そうならないように、開業されておられる先生方と連携して業務を行っていただければと考えております。

B型肝炎：B型肝炎の嫌なところは、思わぬところでHCCの発癌があることです。また、これまでセロコンバージョンすればウイルスが抑え込まれた状態と理解されてきましたが、HBe抗原陰性慢性肝炎という観念も確立され、そこからの発癌も認められます。

C型肝炎：ほとんどの方が治るようになり、残っているのは、①難治性の方②まだC型肝炎ウイルスもっていると認識されていない方（数十万人いると推定されています。）になりつつあります。また、治った後の発癌に関心が移っております。

非アルコール性脂肪性肝疾患：非アルコール性脂肪性肝炎の有病率は、9-30%いると報告されており、全国で1000万人以上いると推定されております。ただ、そのほとんどは単なる脂肪肝で、脂肪（性）肝炎の有病率は3-5%と推定されております。いずれ新薬が出てくると思われませんが、現在の有効な治療は体重を7%落とすこととされております。ただ、BMIが高くない脂肪肝炎の方もおられます。

以上関心の高い疾患を取り上げましたが、それだけではありませんので、疾患にかかわらず、是非ご紹介ください。ご紹介いただけるだけで、「自分はそんなに悪いのか。」と認識し、生活習慣を改め、紹介時はデータがかなり改善していることも珍しくはありません。島田市民病院時代も、病態により、当院の受診は、3か月に一回、半年に一回、一年に1回というような開業医の先生と連携で診てきました。よろしくお願いいたします。

消化器外科 吉田 茂之



この度、浜松労災病院消化器外科に着任いたしました卒後5年目の吉田茂之と申します。

現在東京医科歯科大学に所属しており、卒後4年間は東京、神奈川の関連病院にて初期研修及び、外科後期研修をいたしました。中部地方は自分にとって初めての勤務地となりますが、今回浜松で研修できることをとても嬉しく思います。

浜松労災病院の研修環境をいかして専門領域について日々研鑽を積むことに加えて、大規模病院とは異なる各診療科間や紹介元施設との密な連携、専門領域以外の疾患に対する柔軟な対応力についても学んでいきたいと考えております。

地域医療に貢献できるよう努めて参ります。よろしくお願いいたします。

整形外科 小島 昭司



平成29年4月1日より浜松労災病院に着任しました小島昭司と申します。平成23年卒業後、地元岐阜県で初期研修を行いました。その後京都大学医学部附属病院・静岡県立総合病院・神鋼記念病院での勤務を経て、この度浜松に参りました。

浜松は気候も良く人柄もよいと聞いております。また幼いころに何度か訪問したこともあり馴染みのある土地であり、浜松の名所を巡りたいと思っています。まだ専門は未定ですが、外傷治療を中心にこれまでの経験を活かせるように努力したいと思っています。まだまだ微力ながら浜松の医療に貢献できればと思っています。経験が浅くご迷惑をおかけすることがあると思いますがご指導・ご鞭撻の程よろしくおねがい申し上げます。

泌尿器科 福井 智洋



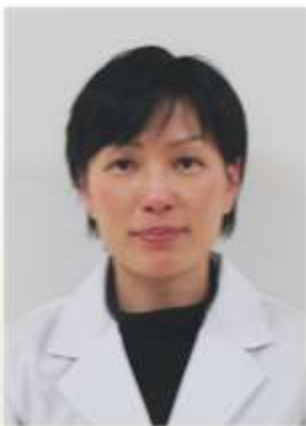
4月より浜松労災病院泌尿器科に着任しました福井智洋と申します。

平成23年に京都大学を卒業、2年間倉敷中央病院で初期研修を行いました。その後、京都大学泌尿器科に入局し、1年間京都大学で勤務の後、平成26年より再び倉敷中央病院で3年間泌尿器科医として勤務しました。現在医師7年目となります。

出身は関西で浜松は初めてですが、風が強いことを除いては住みよい街の印象を感じています。

まだまだ慣れないことも多くご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、地域の皆さまに信頼される医療の提供に尽くしていきたいと思しますので、何卒よろしくお願ひ致します。

眼科 鈴木 寛子



4月より毎週月曜日の眼科外来を担当させていただくこととなりました鈴木寛子と申します。

現在は浜松医大大学院に所属し、小児・斜視グループの先生方と斜視診療における研究・外来を主に行っています。

家では5歳と3歳の2人の子供の育児と家事に追われ、毎日があっというまに過ぎていきます。

丁寧な診療を心がけて参ります。よろしくお願ひ致します。

初期臨床研修医 池之平 勉



初期臨床研修医一年目の池之平勉です。

出身は鹿児島県で、九州大学工学部を卒業した後、浜松医科大学を卒業しました。工学から医学と全く畑違いの分野へ進学し悪戦苦闘しましたが、縁があった浜松で医師としてスタートすることができ、安心すると共に気が引き締まる思いです。

趣味は東京オリンピックから追加種目となったボルダリングや映画鑑賞です。

最初の一週間はあっという間に過ぎ、開院50周年の記念式典にも参加させていただき、とても貴重な体験ができました。

まだ右も左も分からない未熟者ですが、一日一日を大切に精進していきたいと思います。

志望科はまだ決まっていませんが、様々な科を経験し、今後の糧にしていきたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

初期臨床研修医 大塚 智哉



このたび4月から、浜松労災病院で初期研修医として勤務させていただくことになりました金沢医科大学出身の大塚智哉と申します。2年間よろしくお願いいたします。私は浜松市出身で、幼い頃から住み慣れた故郷で、そして臨床研修指定病院の中で最も身近な当院で初期研修を行えることを楽しみにしてまいりました。

研修が始まり1週間が経ちました。初めての手技、慣れない電子カルテに戸惑うことが多いですが、先生方をはじめ職員の方々から優しくご指導いただいております。

諸先輩方にはご迷惑をお掛けすることが多いかと思いますが、少しでも地域の皆様に貢献できる医師を目指し、私なりに努力してまいります。今後ともご指導よろしくお願いいたします。